

きょう と かん じ たん けん たい
京都漢字探検隊

だい かい たくみ わざ
第5回 匠もびっくり、漢字の技

大人の漢字探検隊

ち え
第2回 伝統産業に学ぶ漢字の智慧

12月16日(日)午後、京都伝統産業ふれあい館(京都市左京区みやこめっせ内)において白川静記念東洋文字文化研究所(白川研)主催の「京都漢字探検隊 匠もびっくり、漢字の技」が行われ、小学生と保護者ら約50名が参加しました。また同日の午前には、一般の方を対象にした「伝統産業に学ぶ漢字の智慧」を行い、15名の参加がありました。

今回の講座では、あらかじめ甲骨文字から現代の楷書に至るまでの字体で書かれた道具に関わる漢字(糸・衣・傘・弓・面・陶など)の一覧表が配られました。まず京都伝統産業ふれあい館の北川満哉学芸員から、京都の伝統産業の歴史や、なぜ京都に多くの産業があったかについて「日本に京都があってよかった」という言葉を使って説明が有りました。その後、館内を巡りながら、「伝統産業は後継者だけでなく、材料が集められないということで、継続が難しくなっている」「『非』は元は櫛の形で、『あらず(～でない)と直接の意味はない」「『陶』の中にある『缶』は、もともとは素焼きのかめで、「かん」は欧米からの外来語。」などの説明を受けました。館内一周の後にはまた講義室に戻って「罍(機)の縦糸のかたち)・経・径・軽・茎/糸・玄・率・素」という文字の系統を、社会科や数学の知識を交えて漢字の謎を探索。また「大人の漢字探検隊」では、養蚕の歴史や「予」の由来となった機織に使う「梭(ひ)」が、現代の台湾では「スペースシャトル」として使われることなどについても解説が有り、漢字のもつ力について改めて知ることができました。

次回は、2月10日(日)に北野天満宮で一般向けには「神と結びつく漢字」、親子向けには「京都漢字探検隊 神様から頂いた漢字」と題して開催します。

「京都漢字探検隊」より



友禅染。「衣」は着物を前で合わせた形。
「左前」です。



組みひもの形から「葛」ができました。
「木」を付けると「構(かまえ)」です。



「糸」は蚕の吐く生糸を巻いた形。



西陣織の機。「経」や「幻」の元です。



いちばん遠方は北九州から参加。



「弓・矢・鼓・面」みんなその形から。